

## 施設見学先の施設概要整理

	岡崎中央クリーンセンター	東部知多クリーンセンター	知多南部広域環境センター	西尾市クリーンセンター
炉の形式	シャフト炉式ガス化溶融炉	シャフト炉式ガス化溶融炉 (低炭素型)	ストーカー式焼却炉	流動床式焼却炉
設置時期	平成23年6月	平成31年3月	令和4年4月	平成12年4月
ごみ処理量	190t/24h×2炉(計380t/日)	100t/24h×2炉(計200t/日)	141.5t/24h×2炉(計283t/日)	65t/24h×3炉(計195t/日)
焼却処理に係る 主な資材等	コークス、石灰石(炉用) 活性炭(排ガス処理) 消石灰(排ガス処理) キレート(飛灰処理)	コークス、石灰石(炉用) 活性炭(排ガス処理) 消石灰(排ガス処理) キレート(飛灰処理)	活性炭(排ガス処理) 消石灰(排ガス処理) 尿素水(ボイラー) キレート(飛灰処理)	灯油(炉の立上げ時) 脱塩剤(排ガス処理) ー キレート(飛灰処理)
エネルギー回収	蒸気タービン発電機(10,500kW)	蒸気タービン発電機(4,450kW)	・蒸気タービン発電機(6,520kW) ・余熱利用施設への供給	・蒸気タービン発電機(1,800kW) ・余熱利用施設への供給
排ガス処理方式	ろ過式集じん器 触媒反応塔	ろ過式集じん器	ろ過式集じん器 触媒反応塔	ろ過式集じん器 触媒反応塔
飛灰 排出量	キレート処理後埋立最終処分 3,681.4t/年(令和2年度)	キレート処理後埋立最終処分 1,633t/年(平成31年度)	キレート処理後埋立最終処分 (運営初年度のためデータ無し)	キレート処理後埋立最終処分 4,396t/年(令和2年度)
飛灰 排出先	北部一般廃棄物最終処分場		(公財)愛知臨海環境整備センター 及び構成市町の最終処分場	(公財)愛知臨海環境整備センター
焼却灰 排出量			埋立最終処分 (運営初年度のためデータ無し)	埋立最終処分 2,599t/年(令和2年度)
焼却灰 排出先			(公財)愛知臨海環境整備センター 及び構成市町の最終処分場	市内最終処分場
溶融スラグ 排出量	資源化 10,113t/年(平成30年度)	資源化 3,843t/年(平成31年度)		
溶融スラグ 排出先	株式会社エヌジェイエコサービス (日本製鉄グループ会社)	株式会社エヌジェイエコサービス (日本製鉄グループ会社)		
事業方式	単年度委託＋一部直営	公設＋長期包括運営委託 (令和4～13年度)	DBO方式	直営＋一部運転委託
ごみ処理方式選定時 のメリット	・高品位なスラグ・メタルの資源再利用 ・高効率なごみ発電 ・最終処分量の延命化	・溶融物のリサイクル ・省スペースで建設可能	ストーカ方式と直接溶融方式を比較し、以下項目等を評価した。 ・安定稼働 ・温室効果ガス排出量 ・資源・エネルギー消費 ・施設整備費、維持管理費	
コークス使用量	約50kg/ごみt	約23kg/ごみt		
燃焼温度	溶融炉:約1,800℃、燃焼室:約1,000℃	最高1,800℃	850℃以上	流動床の炉床温度約600℃、燃焼室850℃以上
ごみ質変化への対応	ごみ投入方法、酸素送風量による調整	ごみ質変化にはコークス量の増量などで対応可能	Smart-ACC®により燃焼調整を実施	投入前のごみの細断及び攪拌
クリンカの付着状況 と清掃	約4か月周期の点検整備で清掃実施	シャフト炉にクリンカ付着はほとんどない。 燃焼室へのクリンカ付着には、温度管理とピット汚水噴霧で防止している。	水冷壁構造によりクリンカ付着を防止している。	燃焼状態によるが、連続運転40日程度でクリンカが落下し、炉停止による清掃が必要になる場合がある。
売電電力の売却先	株式会社岡崎さくら電力	中部電力ミライズ株式会社	中部電力パワーグリッド等	中部電力ミライズ株式会社
現状の課題	世界経済情勢によるコークス等副資材の価格高騰	プラスチックごみが減ることへの対応	運営開始1年目につき、様々な調整を組合とSPCで実施している。	連続運転日数が短くなること。これにより、可燃ごみの処理量が上限に近づいていること。